

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470200395		
法人名	社会福祉法人 和仁福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「ぬくもりの家」		
所在地	宮城県石巻市大瓜字箕輪17番地		
自己評価作成日	平成27年11月 1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年11月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケア理念である「その人らしくいきいき」という考えのもと、職員一人ひとりが利用者に合わせたケアを行っている。地域の方が施設に来てくださるのはもちろん、地域の方から「野菜の収穫しませんか。」との声がかかり、活動可能な利用者で家におじゃますることが増え、地域との交流も充実している。また、利用者一人ひとりをよく把握できていることから、制限なく自由に生活できており、施設の廊下・玄関のなか・外の腰掛けられるスペースで、利用者同士で利用し、語らっている風景をよく目にする。買い物やドライブ・行事・外食で外出する機会を多く作り、季節を味わい、気分転換になり、ゆったり穏やかに生活される方が多い。毎日の生活は、生きがいを持てるよう希望の方にはできる仕事をさせていただき、ADL低下予防にもつながっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石巻商業高校の東、石巻霊園の南にある「ぬくもりの家」は、運営推進会議のメンバーを通して「地域交流会」を催すなど地域の一員となっている。災害に対する意識が高く、年2回の総合訓練のほかに毎月の部分訓練や机上訓練も行っている。当法人が運営する医療機関の往診や訪問診療との連携体制がとれている。入居者が「その人らしくいきいきと」暮らせるよう支援することを理念に掲げ、一人ひとりの思いや希望を実践につなげて「その人を大事にする」「本人本位のケア」を大切にしている。それは入居者の表情にも表れており、穏やかに落ち着いた生活をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 認知症高齢者グループホーム ぬくもりの家 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目の届くところに掲げ意識しながら日々業務に当たっている。年に一度職員全員で見直しをし、再確認をしている。	職員みんなで考えた「その人らしくいきいきと」を理念にしている。入居者から学ぶ・支えることなど6項目の業務目標もみんなで決めた。それぞれの入居者の好きな事(散歩、買い物、外食など)が出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに出かけたり、夏祭り・地域交流会はもちろん、事業所と地域の方で計画した行事を行っている。季節の野菜収穫の際、声を掛けていただき、一緒に収穫し、交流を図っている。	近所の住民と、散歩道での挨拶や野菜をもらうなどの付き合いがある。年に一度の芋煮会は地域交流を目的に行っている。地元ボランティア(美容マッサージ、ピアノコーラス)や中学生との交流も楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設にみえる方々に認知症の捉え方を伝えたり、困っていることに相談にのっている。是非認知症の方にも来所いただき、雰囲気味わい、気分転換につなげていただきたいことを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者も参加した会議を2ヶ月に1度開催しており、日常の様子を見ていただいたり、施設の取り組みを報告し、意見を伺い、サービスの向上に生かしている。	入居者の生活をスライド映写で報告し、理解を得ている。メンバーから工事箇所など地域の情報ももらっている。干し柿作りの提案と柿の提供があり、入居者が皮むきして軒下に吊した。2家族以上の参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方に運営推進会議に加わっていただき、様子を伝え、意見やアドバイスを頂いている。また、手続きや申請等わからないときは、教えていただいている。	運営推進会議開催時期やインフルエンザ流行など、社会の動向について意見や助言を受けた。集団指導での書類作りなどの実地指導を活かしている。市主催の地域密着型サービスに関する会議に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の気持ち・状態をしっかり把握する事で、玄関や窓に施錠せず自由に生活していただいている。声がけや見守りを工夫し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	訪問看護師を講師に迎えて、点滴によって気分が落ち込みADLの低下につながるのを学び、拘束とリンクすることを話した。「座ってて」や「～してください」と頼むことは拘束になると理解している。玄関は開け放され、外のベンチで入居者が寛いでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケアカンファレンスや毎日の引継ぎ等で対応の仕方を検討・確認していることで、日常的に虐待をしないケアをしている。虐待については研修伝講(内部研修)等でも理解できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を利用されている方もおり、日常業務をする事で理解できている。研修伝講(内部研修)等でも理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約について、理解できる方は本人を含め主に家族と話し合い、不安のないように心配なところについては、理解できるまでしっかり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見書(箱)を設置している。利用者には聞き取り調査を行い、家族にはアンケートに答えていただき、意見要望があればすぐに取り上げ生かすようにしている。それを運営推進会議でも報告している。	入居者と家族それぞれに、アンケートを行なっている。新任職員に話し難いとの意見があり、職員から話しかけるよう指導した。多くは感謝の言葉をもらった。年度初めの家族懇談会でホームの理念について話している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営については法人の考えをもとに、利用者や家族・職員の意見を取り入れてもらっている。新年度の事業計画・業務目標・指針その他について職員の意見を求められ日常の業務に活かされている。	職員が家族の介護で休んだ際、法人は介護休暇を就業規則に加えた。入居者についての気付きや提案を引き継ぎで共有し、ケアに活かしている。冷蔵庫内の整理や備品の購入など職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は話し易く、仕事の悩み等について相談し、アドバイスも頂いている。給与や労働条件については、法人として就業規則もしっかりしており、安心して仕事ができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の中には家庭の環境で外部の研修に参加できるものが少ない職員もおり、外部研修の伝講や内部研修を多く行い、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会を利用し、同業者と情報交換できる機会がある。また、法人を超えた本病院主催の研修にも参加する機会もあり、サービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時から入居まで、事業所に来ていただき、事業所の雰囲気を感じ、職員と関わりを持つ機会を多く作り、リロケーションダメージを少なくできるようにした上で、安心して入居していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みの時点から困りごとや不安に思っていること・要望を伺い、事業所と家族と一緒に利用者の支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話による問合せや見学・実態調査時、利用者本人が必要なことについて、事業所の利用を勧めるだけでなく、その方にあったサービスの利用について提案し、担当ケアマネにも伝え、問題解決に尽力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共生の関係にあり、お互いに手伝ったり手伝っていただいたりしている。お互いに感謝を言葉にし、生きがい・やりがいにつながっている。昔ながらの行事や慣習等良く教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のキーパーソンとなる家族の力が大きい場合もあるので、職員と家族が協力して利用者の支援をしている。家族が距離を置いたほうが良い場合もあり、状況にあった支援の形をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで大事にしてきた友人・親戚・場所等を大切に考え、面会や電話対応・相手の理解があれば訪問したり、馴染みの関係を大事にした支援を行っている。	ボランティアと懐かしい歌を一緒に歌ったり、入居者の地元の夏祭りに参加し、盆踊りを楽しんでいる。彼岸供養や盆供養、節分豆まきなど昔からの年中行事には、ダンゴやおはぎ等の供物を一緒に作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で廊下や玄関前のベンチを利用し、会話を楽しんでおられる。引っ込みじあんの方には、活動や食事を利用し、関わりを持てるよう支援している。職員は関係をよく理解しており、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院へ退居された方、特に移動したばかりの頃は、支障がない限り面会し、混乱に結びつかないように配慮している。退居後に亡くなられた方には、焼香にお伺いするようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	つぶやきや行動・訴えをもとに、ケアカンファレンスや毎朝の引継ぎ時間に、対応の仕方を職員皆で検討している。自分で意見を述べられる方には、同席していただいたり、あらかじめ意見を伺ったりしている。	意思表示が苦手な入居者の独り言にも気を留めて、話を引き出し思いを汲み取っている。かかりつけ医との面談で、その人が穏やかになるなど、職員の細やかな観察がケアに活かされ、対応が適切に行なわれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査で確認している。入居後は本人の言葉を注意深く聞くことで把握している。意思表示できる方には、直接伺うようにしている。また、家族の協力により家で使っていた家具をお持ちいただいている方もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子・訴え、心身状況等を記録し、職員同士で伝達している。状態を把握する事で穏やかに生活できるよう対応ができています。在宅時からしていたことはなるべく継続していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況に合わせ1ヶ月～6ヶ月に1度ケアカンファレンスを行い、モニタリング・状況の確認を皆で行い、本人・家族・必要な関係者からも意見をいただき、ケアプランを作成している。	「本人のいいように」をプラン作成の前提としている。気分転換に「親戚訪問」や「買い物」を盛り込むなどした。家族が捉える状態と現状にズレがある時は、話し合っ理解を得るなど、プランの説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりをよく観察し、生活の様子・訴え、心身状況等を個別に毎日記録し、職員同士で伝達している。情報を共有する事で対応時やケアプランの見直しに生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のニーズを把握し、その時々ニーズに合った必要なサービスをそのつど工夫したり、外部から情報を集めて提供する等、一人ひとりを大切に考え、できるだけ安心して生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院・スーパー・観光地・公共施設・地域のイベント等を常に把握し、利用者の希望に応じ利用している。地域に出て行くことでいきいきと生活されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医に診て頂いている。事業所では医師と連絡を取りその時その方に必要な情報を交換し、適切な医療が受けられるよう支援している。	受診は家族が同行しているが、変化時など必要に応じて職員も同行している。受診時は、バイタルチェック表や生活の様子、聞きたいことなどの書面を持参している。結果は申し送りで職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師はいないので、併設施設・訪問・かかりつけ等の看護師、または直接医師に状況を伝え、アドバイスを頂くようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族とともに本人の詳しい情報を病院に提供し、治療に役立てていただいている。また、治療に支障のない限り頻りに顔を見せ安心して治療を受けられるように図っている。病状によっては、入院が長くないよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居時の説明で重度化した場合や終末期のあり方・事業所のできることにについて説明をしている。(理解できる方には本人にも)また、入居後重度化している家族には、医師を含めた話し合いを持ち、住み替えのための支援を行っている。	腰掛けや介助があっても入浴が困難な状態を限界として、その状況に適した施設に移ってもらうことを方針とし、入居時に説明し同意を得ている。将来の意向確認(最期を何処で迎えたいか)で家族の多くは「入院」としているが、「できればホームで」との意向もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が考えられる利用者には個別に対応・連絡についてマニュアルを作成し家族とともに確認している。特変時の対応・連絡についてマニュアルを電話の近くに貼り出し、緊急時見ながら電話できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回併設施設や消防と総合防災訓練を行っている。事業所ではほぼ毎月図上訓練や応急処置非常食を使った調理法・緊急時の持ち出し資料の確認等を行い、避難時のシュミレーション等を数多く行っている。	毎月の消防設備自主点検に合わせて訓練を実施している。洗濯室からの出火や夜間など想定を変えて話し合ったり、看護師から出血時の応急手当など学んでいる。訓練時の反省は次の訓練で改善している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちになり一人ひとりの人格を尊重し、失礼のないように言葉遣いに気をつけ対応している。また、居室に入るときやトイレの声がけ等ノックや声の大きさ等プライバシーに気をつけかかわっている。	その人の生活歴を把握して、敬語や親しい話し掛けなど配慮している。行事に参加せずに見て楽しんでいることも尊重し、無理強いはない。入浴時に傍にいないのを好まない人には、距離をとって見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業計画のような大きい事からおやつの選択のような小さい事まで一人ひとりの希望を伺い、自己決定ができる機会を多く作っている。自分で決定できない時は、その方の好きな物を選ぶ等の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の活動を考えられない方も多いので、その時その時で様々な活動を取り入れている。自分でしたいことがある場合はそちらを優先して自分のペースで自由にしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣類・化粧水・クリーム等自分で購入できるよう支援している。自宅にいた時と同じ様に整容している。皆さんは出張理美容を利用されているが、在宅時からの行きつけの理容所にお連れする方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おはぎやおやつを皆で楽しく手作りしたり、食事では、一人ひとりの好みを把握し、苦手なものは代替を準備し召し上がっていただいている。準備や片付けはできる方が無理のないように職員とともにやっている。	アレルギーを持つ人への代替食や正月の餅つき、雑祭り茶会で桜餅など年中行事の食膳を楽しんでいる。プランターで野菜を育て食材にしたり、配膳下膳をするなど入居者は自分の力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量に合わせ盛り付けをしており、食欲不振時の代替や吸収の良い飲み物を身体状況に合わせ準備している。献立は併設施設の栄養士にチェックしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた口腔ケアができるように声かけ・誘導、使用物の準備見守り等を行っている。できない方には介助し、口腔内の点検もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	恥ずかしさを感じることで、排便のチェックのみ、声がけ、排泄チェック表での確認と必要に応じた支援をしている。また、状態に応じ排泄グッズや支援の方法をその都度検討している。	本人の言い分を尊重し、失敗による動揺など本人の心理面を大切にしている。リハパンやパッドのメーカーや種類を試し、その人にとって最も合った物を使用している。職員の小さな観察と適切な対応で自立度は高い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により、食欲や生活意欲の低下・排便の苦痛から不穏な行動に結びついたりするので、全員について排便間隔を把握し、入浴や運動・食物繊維や乳製品・その他を提供し、なるべく自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴・一番先の入浴・夕方の入浴等希望に応じ入浴していただいている。入浴が好きでない方には、入りたくなるような声がけを工夫している。入浴中は職員と親密な時間を楽しんでいただいている。	1日おきを目安に入浴している。入りたがらない理由は億劫と言うのが多いが、声掛けする職員を替えるなど、気分が乗るように工夫している。浴室では昔話や家族の話が聞けるなど、1対1の大切さを感じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしたり、一日の流れを考え関わっている。安眠できるよう話を傾聴し、眠れない時にはホットミルクを提供し、ゆっくりと穏やかな時間を過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師から薬の変更や効能・副作用等説明していただいたとき、職員全員で理解し、変更後は様子観察をしっかり行い、医師に伝えている。毎日の薬は、声に出して服薬確認を行い、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅時と同じ家事や趣味活動を入居後も行っていただいている。毎日新聞を読む方は個別に新聞をとり自由に読んでいただいている。ドライブ・外食・買い物・散歩等気分転換になることをたくさん取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や職員からの声がけで外出している。地域のイベントや少し遠くの昔の住居の近く等、気分転換のため回数多く機会を設けている。地域への用事にも職員と一緒に出かけ、地域の方と会話する機会も多い。	初詣は湯殿山、花見に天平館など外出が行事計画にある。そのほかにも入居者の希望でホテル観洋で食事をしたり、職員の気付きから気晴らしでドライブや外食に行っている。外出によって得られる気分転換や五感の刺激などの効果をよく理解し、支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは通常、金庫に預けていただいております。外出の折には、財布を持参し、自分でできる方には、自分の手で支払いをいただいている。いつでも中身を確認できるような対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手に迷惑のかかる時間帯を除いて、いつでも本人の希望するとき電話・手紙の投函ができるように支援している。また、電話や手紙が届いたときは、混乱しないように職員も一緒に中身を確認することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースにカレンダー・写真・季節にあった掲示物があり、その前で利用者同士で語っていることも多く、不快や混乱を招くようなところは無く居心地良く暮らせている。	和室を囲んで居室と食堂兼リビングがある。回廊の高い天窓が屋内を明るくしている。壁には外出した際の写真や入居者作品の習字などが貼ってある。この日、クリスマスツリーの飾りつけを楽しんでいた。レクリエーションやリハビリ体操を、庭ですることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関付近に腰を下ろせる空間がたくさんあり、自ら外気浴をしていたり、利用者同士で話し込んでいたり、好きな場所で自由に過ごされている。一人ひとりをよく把握する事で必要な見守りができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの馴染みの物や好きなものを置き、自分の好きな空間にし、本人や家族が居心地良く過ごせるように工夫している。家族の協力で、在宅時に使用していた家具を持参されている方もある。	新聞を読んだり編物をしたりと自分の好きなように過ごしている。貼るのが好きな人、小物をたくさん並べているなど、その人らしい居室になっている。夜間の3回巡視のほか、物音にすぐに対応できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下はちょうど良い広さで、手すりを使って歩けるようになっている。トイレも広くバリアフリーで使いやすい。廊下には腰掛けと消火器ぐらいの設置で、避難時はもちろん、歩行訓練を自らされている方もいる。		